

白龍亭

# ハダ伝辞書Pro

ver.1.0 移植版

# 目次

辞書概要 .....	3
「八犬伝辞書 Pro」とは？ .....	3
「標準辞書」と「拡張辞書」 .....	4
ver.1.0 の収録語数 .....	4
標準辞書 .....	5
人名について .....	5
地名について .....	6
その他の収録語 .....	8
拡張辞書 .....	9
人名の短縮登録 .....	9
その他追加機能 .....	10
拡張辞書の問題点 .....	11
注意すべきこと .....	11
馬琴的仮名 .....	12
入力上の問題点 .....	12
馬琴自身の記述の揺らぎ .....	12
未収録語 .....	14
未調査の地名 .....	14
挿絵中の固有名詞 .....	14
和漢の故事中の固有名詞 .....	14
その他の事項 .....	15
バージョンアップについて .....	15
著作権・配布・免責等について .....	15
オリジナル版の制作確認環境 .....	15
制作雑記 .....	16

# 辞書概要

## 「八犬伝辞書 Pro」とは？

登場人物名と地名を中心とした「南総里見八犬伝」関連の固有名詞を変換させるためのIME辞書。白龍亭主作成のオリジナルはMacintoshの「ことえり」用。これはその移植版である。ここではオリジナル版を作成した白龍亭主が辞書の基本説明をする。移植版の詳細については移植者によるガイドを読んでいただきたい。

八犬伝にも色々あるがこの辞書は曲亭馬琴の原作だけを対象としている。NHK新八犬伝や碧也八犬伝等にはのみ表れる用語は収録していない。また原作の世界に忠実たらしめるために、変換する漢字は旧字（但しJISの制約による妥協はある）のみ。入力も旧仮名でなければいけない。

例：さとみぢぶのたいふよしざね 里見治部大輔義實

この仕様は、原作に触れたことがない人には辛いかもしれない。しかしこの「Pro」辞書に限っては「新仮名入力、新漢字変換」に対応させる予定は全くない。そういう需要にはそれに見合った別の辞書があるべきだと考えるからだ。実際、新仮名入力のWindows MS-IME用八犬伝人名辞書（えみえみさん作成）は存在する。

あるいは「新仮名で入力すれば新漢字に変換し、旧仮名で入力すれば旧漢字に変換する」というのが理想かもしれない。だが、ただでさえ単語数の多いこのPro辞書の倍近い語数の辞書を作るのは至難である。なお「八犬伝辞書 Lite」を併用すれば、主要人物や主要地名に限って、そういう入力環境が実現する。

例：たいぎゅうろう 對牛樓（Lite） / たいぎゅうろう 對牛樓（Pro）

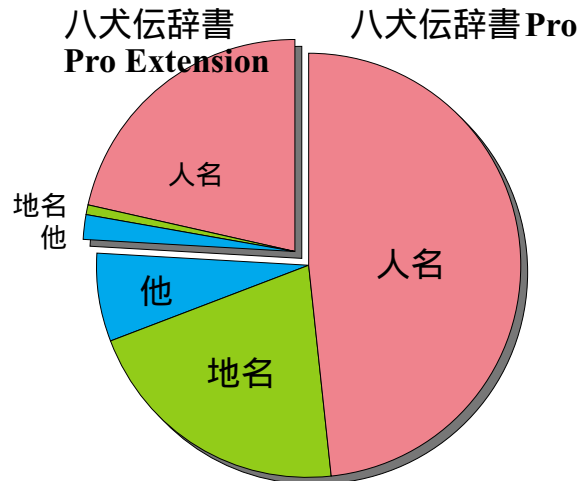
なおPro辞書は、あくまで馬琴的旧仮名での入力が要求されるので注意が必要である。（詳細後述）

## 「標準辞書」と「拡張辞書」

標準辞書の他に拡張辞書「八犬伝 Pro Extension」を同梱している。辞書の使用目的によっては拡張辞書を組み込んだ方が便利かもしれない。( 詳細後述 )

### ver.1.0 の収録語数

ver.1.0 に収録した語数は、標準辞書、2408 語。拡張辞書、761 語。あわせて 3169 語。内訳は下のグラフを参照。( オリジナルことえり版の場合。移植版は IME の都合により変更されている可能性がある )



## 人名について

白龍亭資料「全登場人物名リスト」を基に、苗字、官名、氏、姓、諱をそれぞれ単独で収録した。

元資料のリストでは「物語の進行につれて名が変わる人物」に関しては代表的な名のみ掲載している。この辞書は変遷した名を全て収録した。

例：新織帆太夫敦光 新織帆太夫明風 新織帆太夫素行

例：姥雪世四郎 姥雪與四郎 姥雪代四郎與保

JIS第一第二水準内に旧漢字が存在しない場合には「神」のように新漢字で妥協しているが、それすら存在しない場合には𠄎（ゲタ）で表記して[ ]内でその漢字の形を解説。

例：百堀𠄎三 [魚偏 + 即の舊字]

馬琴自身が簡略漢字を使っている場合には、いわゆる新字に変換するものもある。

例：祿齋屋余市（「餘市」とはならない）

馬琴の誤記や、表記上の揺らぎも分かる範囲で収録した。ゆえにひとつの人名に対して複数の変換候補が存在することになる。どれが正しいか、どれが頻出しているか、についての情報は付記していないので注意されたい。

例：禮儀（正） / 禮度（誤記）

なお、元の資料同様、八犬伝中で引用される和漢の故事中にのみ登場する人物名は収録していない。（詳細後述）

なお特殊な例として以下のものがある。

例：やきのはら・なごん 矢木原 納言

（四角）の入力に仮に・（中黒）を当てている。中黒ならキー入力できるからである。

拡張辞書「八犬伝辞書 Pro Extension」を組み込むと、苗字だけの入力でフルネーム変換が可能になる。（詳細後述）

## 地名について

白龍亭未公開地名資料を基に、国名、郡名、郷村名、山川名、橋や寺院等の建築物名、建物の中で固有名詞を持つ部屋名を旧漢字で収録。元の資料が未完成のため、全地名収録には至っていないが漏れは少ないと思う。

JIS第一第二水準内に旧漢字が存在しない場合には「神」のように新漢字で妥協しているが、それすら存在しない場合には𪛗（ゲタ）で表記して[ ]内でその漢字の形を解説。

例：はこね 𪛗姑峰 [ 貌 + しんにょう ]

馬琴自身が簡略漢字を使っている場合には、いわゆる新字に変換するものもある。

例：昼無住院（この例は旧字の「晝無住院」の個所もある）

わざわざ単語登録しなくても殆どのIMEで変換する地名は収録していない。

例：山田村

殆どのIMEで変換する地名であっても、新仮名と旧仮名が異なる場合は、旧仮名入力に対応させるために収録したものもある。

例：上野（「うえの」で確実に変換するが「うへの」で収録）

旧仮名入力中は頭の中が旧仮名モードになっているので、あらゆる単語が旧仮名で変換してくれた方が楽なのだ。新旧混在は疲れる。

現在の地名と同じ文字の場所も多々あるが、読みが異なる場合があるので注意されたい。

例：二荒山

上の例では馬琴は「にくわうさん」と「ふたれさん」との仮名を振っている。後者に関して現在の地名は「ふたらさん」である。知っていれば問題はないが、知らずにこの辞書を使って「ふたれさん」で記憶してしまう危険性もないとは言えない。地名に関しては要注意な面もある。

地名と人名に同じ単語がある場合は、人名にのみ収録。重複を避けている。

#### 例：七浦

屋号店舗名は基本的に地名に分類しているが、店主の名前になっている場合は人名に分類してある。これも重複回避のため。

#### 例：小乗屋（地名）／古那屋（人名）

ただし船商人「上五郎」のみは、店主名になっていないにもかかわらず人名に分類した。移動店舗なので地名に分類することに違和感があるから。

オリジナルことえり版では、複数の単語を組み合わせた語もあえて収録してある。変換効率の悪いことえりで快適な入力をさせるため。（変換効率の良いIMEに移植する場合は削除しても問題ない可能性がある）

#### 例：下今井

馬琴の誤記や、表記上の揺らぎも分かる範囲で収録した。ゆえにひとつの地名に対して複数の変換候補が存在することになる。どれが正しいか、どれが頻出しているか、についての情報は付記していないので注意されたい。（これはオリジナルことえり版の場合。IMEの中には変換候補に対して注を付記できるものもあるので、移植版ではこの問題をクリアできる可能性がある）

#### 例：返璧（頻出語）／璧返（稀出語）

読みの揺らぎに関しても分かる範囲で収録。

#### 例：小千谷（をぢや／こちや）

上の例では、初出回では「こちや」だが、後の回では越後の鈴木牧之からの指摘があったとして「をぢや」に修正している。

なお、元の資料同様、八犬伝中で引用される和漢の故事中にのみ登場する地名は収録していない。（詳細後述）

拡張辞書「八犬伝辞書 Pro Extension」を組み込むと、一部だが寺院名の入力だけで山号付で変換する。（詳細後述）

## その他の収録語

「観世音」などの神仏名。ただし神仏そのものよりも神社仏閣が主になる場合は地名に分類したものもある。妖鬼等は具体的な活躍があるため人名に分類されているものが多い。不統一ではある。

「村雨」などの名刀名。

「兩茶の禮」などの里見家の茶シリーズ。

「隠微」などの稗史七則や「名詮自性」などの馬琴の定番用語。

「～輯」「～回」などの数字列接尾語。(IMEによっては助数詞)

「八犬士」「阿耨多羅三藐三菩提」などのその他重用語。

「長祿」などの年号。(年号変換のできないことえり版の場合)

なお、馬琴自身が簡略漢字を使っている場合には、いわゆる新字に変換するものもある。

例：文外の画、画中の文



## 人名の短縮登録

苗字を入力するだけでフルネーム変換できる。

例：あふぎがやつ 扇谷修理大夫定正（無拡張だと「扇谷」としか変換できない）

なお苗字と名前の間に「の」の読みがある場合は、苗字＋「の」の入力でフルネーム変換する。

例：あきしのの 秋篠將曹廣當

八犬士のフルネーム変換に関しては2つの特例がある。

一「宿禰」と「宿祢」

例：犬江親兵衛金碗宿禰仁 / 犬川莊介金碗宿祢義任

親兵衛のみ「宿禰」で、他七犬士は「宿祢」になる。八犬伝中、宿祢を含めたフルネームで犬士名が記述されている個所は少ない。親兵衛が京都から帰東する途中の記述と、対関東管領戦出陣前の七犬士の記述ぐらいしか白龍亭主は確認していない。その2ヶ所の記述がそれぞれ「宿禰」と「宿祢」になっているので、それを変換に反映した。

二「兵衛權佐」と「兵衛佐」

例：犬飼現八兵衛佐金碗信道

現八は「兵衛權佐」に叙任されたはずだが、官名を含めたフルネームで犬士名が記述されている個所では「兵衛佐」になっている。いったいいつの間に出世したんだ？ フルネーム変換ではこの誤記の方のみを反映してある。

地名＋「の」の文字＋名前、で登場する人物名は名前の入力だけで地名付変換ができる。

例：そりくらう 木澤村の雪車九郎（無拡張だと「雪車九郎」としか変換できない）

地名以外の枕＋「の」の文字＋名前、で登場する人物名は名前の入力だけで枕付変換ができる。

例：かぢくろう 暴風の舵九郎（無拡張だと「舵九郎」としか変換できない）

但し上の例では「暴風舵九郎」と、あたかも苗字であるが如き扱いの記述も八犬伝中にある。どちらの短縮変換ルールを採用すべきか迷うところである。この例に関しては「あかしま」と入力した時は「暴風舵九郎」と「の」を抜いた名前で変換するようにしてある。

……そもそも地名と苗字を分けて考える方が間違いなのかもしれない。しかし白龍亭主には、間の「の」の有無で分ける方が使いやすいので、かくなる仕様となった。

### その他追加機能

一部寺院名を山号付で変換できる。

例：えんめいじ 無量山延命寺（無拡張だと「延命寺」としか変換できない）

一部人物の戒名が変換できる。「～かいみゃう」の形式で入力。

例：よしざねかいみゃう 獻珠院殿建寶興公居士

馬琴自身に関する用語がちょっとだけ変換できる。「ばきん～」の形式で入力。

例：ばきんくすり 家傳神女湯

例：ばきんぢゅうしょ 昌平橋外神田明神女坂下同朋町東よこ町

馬琴の他作品名がちょっとだけ変換できる。

例：ちんせつゆみはりづき 椿説弓張月

馬琴の周辺に関する用語がちょっとだけ変換できる。

例：ぶんけいだう 文溪堂（丁字屋平兵衛）

八犬伝中の頻出語の中で面白そうなものを僅かながら変換できる。

例：あなや 吐嗟

その他の追加用語に関しては、白龍亭主の頭脳中にも明確な収録基準が定まっ

ていない。この辺の用語に関して「どういう基準で選んでいるんだ？」と問われても「なんとなく」としか答えられないのが実情。

### 拡張辞書の問題点

短縮登録機能は諸刃の剣である。八犬伝がらみの文章を書く時は便利だが、それ以外ではうざったいこともないとは言えない。拡張辞書として標準辞書と分離した所以。

とはいえ、実際のところ「あしかが」「うへすぎ」「さとみ」あたりを多用する人以外は、さほどうざったくないと思う。

### 注意すべきこと

標準辞書を使わずに拡張辞書だけを使うと「伏姫」など、名前だけの( = 苗字がない ) 人物名が変換できなくなる。

# 馬琴的仮名

## 入力上の問題点

馬琴の仮名遣いは、いわゆる「公式の」歴史的仮名遣いとは違う。

この辞書の旧仮名入力は、あくまで馬琴的旧仮名のみを受け付ける。白龍亭主のように「八犬伝以外の古典には親しんだことがない」人だったら問題ないのだが、古典を友としているような人は困惑するかもしれない。

左が古語辞典に載っている公式な旧仮名、右が馬琴的旧仮名。

例：入道（にふどう／にうどう）

例：將軍（しょうぐん／せうぐん）

例：關東管領（くわんとうくわんりゃう／くわんとうくわんれい）

但し「入道」に関しては、お路代筆個所に僅かながら「にふどう」の例も見つけたので、辞書収録はしてある。

## 馬琴自身の記述の揺らぎ

実は馬琴自身も不統一で同じ漢字に対して仮名の振り方が異なるものが多い。

例：龍（りう、りゃう、りゅう）

例：十（じふ、じう）

例：應（おふ、おう）

例：院（あん、いん）

この「八犬伝辞書 Pro」はこのような馬琴自身の仮名遣いの揺らぎをもカバーするつもりだが、現時点ではあまり対応できているとはいいがたい。

但し、揺らぎには次のような場合もある。

蛭崎親子三代だ。白龍亭主が確認した限りでは「十郎」に「じふらう」の振り仮名はなく、「十二郎」に「じうにらう」の振り仮名はない。このように漢字個々には揺らぎがあるものの、単語としては揺らいでいないものも多々ある。この辞書は変換にこの事を反映させている。

例：十郎（「じうらう」のみ。「じふらう」では変換しない）

例：十二郎（「じふにらう」のみ。「じうにらう」では変換しない）

例：白龍（「はくりう」のみ。「はくりゃう」では変換しない）

例：狐龍（「こりゃう」のみ。「こりう」では変換しない）

以上の仕様により、非常に使いづらい辞書になっているのは否定できない。たとえば「八犬伝用語養成ギブス」と化しているわけである。

古語辞典と合致する表記は、お路代筆個所に多いような気がする。但し、調べたわけじゃないので、あくまで「気がする」だけだが。

# 未収録語

## 未調査の地名

白龍亭の地名資料が未完成のためこの辞書の収録地名も不完全。件の資料が完成した暁にはこの辞書の収録地名も完全なものになる……筈。

## 挿絵中の固有名詞

馬琴は「文外の画、画中の文」といって挿絵の重要性を示唆している。だがこの辞書は、八犬伝本文にはなくて挿絵中にしかない重要語にはほとんど対応できていない。現在収録されているのは次の例ぐらいのものである。

例：神變大菩薩

因にこの例は、前述の、馬琴が挿絵の重要性を示唆した個所にある。

## 和漢の故事中の固有名詞

八犬伝には和漢の故事からの引用が多く、和漢の人名地名などの固有名詞も当然多く登場する。白龍亭には現在、それらを収集整理した資料がない。そのため、それらの固有名詞はこの辞書には収録されていない。

但し今ある白龍亭資料中には主役クラスのキャラクターの先祖などは収録しているため、この辞書にもそれは反映されている。

例：等持院殿足利尊氏

将来的には「引用故事用語」も拡張辞書として提供できれば、とは思いますが……。思うだけで終わる可能性も高い。

# その他の事項

## バージョンアップについて

間違いがあれば修正してバージョンアップする。だが、間違いがなくても無闇矢鱈と登録単語を増やす可能性はある。

## 著作権・配布・免責等について

移植版における移植者の「著作権・配布・免責等」は、移植者による添付ファイルを参照の事。

フリーウェアで無料だけど、白龍亭主は著作権を放棄していない。

辞書が原因でなんらかのトラブルが生じても亭主は責を負わないものとする。

## オリジナル版の制作確認環境

オリジナルのことえり版は、PowerMac G4(PCI) + MacOS 8.6 + ことえり 2.2.2、で制作 + 確認。使用したテキストエディタは、ミミカキエディット2.01。

移植キットは、ことえり版辞書をテキスト形式で出力したもの(各語を「”」で囲んだカンマ区切りテキスト)を、VirtualPC 3.0 with Windows98 SE 上にコピー。Excel でタブ区切りテキストに変換。

この移植版は移植キットを元に作成されたものである。

Windows MS-IME 版は、移植キット 版をベースに、ゆこさんの手により白龍亭主のオリジナルことえり版と平行作業で開発されたものである。ありがとう、ゆこさん。

## 宗庵的独言

### 1. 何故に苗字と名前を完全分離したのか？

たとえば「扇谷修理大夫定正」と入力する時はいいのだが、「扇谷定正」と入力したい時もある。フルネーム変換後に「修理大夫」を削除する方法もあるが面倒くさい。ということでバラバラにした。

ところがこうすると、苗字と名前の組み合わせを記憶していないとどうにもなくなる。その対策として苗字のみの入力でフルネーム変換を可能にする拡張機能を追加したのであった。

### 2. 何故に旧仮名入力なのか？

自分にとって、新仮名入力辞書を作る手間と、旧仮名入力に慣れる手間を比較すれば、後者の方が楽だ。旧仮名も慣れればそんなに大変じゃないのだ。

実は旧仮名の方が合理的だったりする。たとえば「土地」は「とち」である。「地」は「ち」だ。ならば「地藏」は「ぢぞう」のはずだ。なのに新仮名ってやつは「じぞう」しか受け付けない。「ぢぞう」で入力すると「痔増」なんて変換しやがる。嫌だよ。

八犬伝辞書 Pro / 2000 年 8 月

白龍亭

おばく堂（園部宗庵）